

## テーマのきっかけ

普段から子どもたちは、園庭やテラスで水を使ったり、園庭にできた水たまりで遊んだりしている。また、手を洗う、足を流すなど、子どもたちにとって水は身近なものである。

遊びや生活の中で出会う水に、子どもたちは何を感じているのか、何を面白がっているのかを見極めていきたい。

また、水から広がっていく遊びを充実させていきたいと考え、このテーマに設定した。

## 方法

今後どのような遊びに広がっていくのかを、子どもの呟き、保育者の意図、写真等を交えて保育ウェブにて記録していく。

## クラスの活動・環境づくり



### 2歳児ぱんだ組：水の心地よさを感じる(6～7月)

- ・全身で水の冷たさ、気持ちよさを感じながら思い切り遊ぶ。
- ・道具を使って水とかがかわる。

#### 環境設定

- ・たらい【水を溜めて自由に使えるように】
- ・容器(バケツ、コップ、ペットボトル、シャベル)
- 【普段使っている身近なもので、水を汲めるように】

## 保育者の関わり

・移し替える姿が多く見られたので、新たに道具(器やひしゃくなど)や、水の動きを楽しめるものを用意してみると、色々な容器に移し替えて楽しむ姿が見られた。

・ホースで保育者が水を出すと、指先や手のひらで触ってみる姿があった。自分が力を加えることで水の形が変わるのを楽しんでいた。子どもたちが扱いやすく、力を加えることで変化が起こることを体験できるものを用意していく。

## 子どもたちの気付きから

・水道の水に手や足で触れたり、たらいの水に手を入れたりしながら「つめたい」「きもちいい」という呟きが聞こえた。水面を叩いて水しぶきがかかることも喜んでいて。初めは手や足で水の冷たさや心地よさを感じていたが、次第に全身を使って感じていった。また、濡れて楽しいという思いと共に、叩く動作によって水しぶきがあがるという、自分が働きかけたことによって水が動く面白さを感じていたのではないかと。

・ペットボトルに水道から水を出して入れる姿、たらいに溜めてある水からも汲んでみる姿があった。初めはペットボトルが浮いてしまいうまく水が入らなかったが、両手で沈めているうちに水が入っていくことに気が付いていた。保育者が知らせなくても、試していく中で水を入れることができ、ペットボトルを逆さにして水が出ていく様子もじっと見ていた。繰り返し移し入れを楽しむ姿が見られたので、いくつか容器を用意することにした。

## 活動の振り返り

### 2歳児ぱんだ組：水や様々道具を使い、変化を面白がりながら遊ぶ(7～8月)

- ・自分の力を加えたことで水の変化が起こることを発見したり、面白がったりする。

#### 環境設定

- ・透明なコップ
- ・穴の開いたペットボトル
- ・じょうご・霧吹き
- ・ポンプ式の容器
- ・ウォーターサーバー
- 【自分が力を加えることで変化が起こるもの】

・様々な道具を用意し、一緒に試したり使ったりしながら水と関わっていったことで、子どもたちから普段の生活の中で使っているものに見立てたり、大人の姿をまねたりして遊ぶ姿が見られるようになってきた。

・透明な水でも、コップの色に合わせてジュースに見立ててお店を開いたり、大きい器でカレーを作ったりしていた。水遊び、室内共に、ままごとに使えるような道具も用意していく。

・小さい容器にもひしゃくで水を入れる姿があった。大きさが合っていないと入れづらそうであったので、それぞれ大きさの違うものも提示していった。

・穴の空いた容器から水が出る様子を何度も繰り返し見て、水がなくなるとまた汲んで入れていた。不思議さや面白さを感じるとともに、なくなるとまた汲めばよいということに気づいたのではないかと。

・霧吹きから出るミスト状の水の面白さを感じたり、体にかかると冷たさを感じたりしていた。自分が手を加えることで変化が起こる道具を用意することにした。

## 2歳児ばんだ組:水をイメージして遊ぶ(9月~)

・見立てたりイメージを再現したりして遊ぶことを楽しむ。

### 環境設定

- ・ペットボトルのジュース・人形用の哺乳瓶・歯ブラシ、コップ  
【生活の中の身近なものに見立てられるように】
- ・お化粧品コーナー(スプレー、メイク道具、鏡)
- ・お風呂コーナー(シャワー、水、ポンプ、スポンジ、ドライヤー)

・水遊びで使った道具をアレンジし、本物のよう  
に見立てて遊べるよう室内にも用意したり、  
保育室を家のようなゆったりとした空間にな  
るように設定したことで、イメージがつながり、  
遊びの幅も広がっていった。

・保育者も子どものごっこの世界に浸りなが  
ら言葉を加えたり役になりきったりして楽しん  
でいったことで、子ども同士の言葉のやりとり  
も増えてきている。

・バケツの中でスポンジを回して擦りながら「食器洗っているの」と保育者に伝えたり、ポンプボトルに水を入れ、手のひらに出して化粧水を塗っているような素振りをしていた。  
様々な道具を試したり使ったりしながら水と関わっていったことで、普段の生活の中で使っているものに見立てたり、大人の姿をまねたりして遊ぶ姿が見られるようになってきた。じっくりと遊び込み、保育者や友達とやりとりをして楽しむ中で、イメージが広がり、ごっこの世界になっていくのは、2歳児の発達ならではののではないかな。

・水遊びの時期は終わったが、室内でもごっこを楽しめるように本物に見立てられるような様々な道具やコーナーを設定した。お風呂コーナーでシャワーを流したり、ポンプをシャンプーやボディソープに見立てて泡立てたりしながら「きれいにしよう」と自分の体やぬいぐるみを洗っていた。お化粧品コーナーでは、「メイクアップするよ」とパフを頬にあてたり、リップを塗るまねをしたりしておしゃれをしたり、友達にしてあげたりしていた。自分の経験を再現している姿、家族や保育者など身近な人のまねをして遊んでいる姿が多く見られた。見立てやすいものがあることで、さらにイメージが広がっていくのだと感じた。

## 次につなげていきたい！

・水とじっくり関わりながら遊んだ経験が、子どもの豊かな表現や現在の室内遊びでの見立てやごっこ遊びの姿につながったと思われる。

・水遊びで使った道具をアレンジし、本物のよう  
に見立てて遊べるよう室内にも用意したり、保育室を家  
のようなゆったりとした空間になるように設定したことで、  
イメージがつながり、遊びの幅も広がっていった。

・子どもの姿や言葉から「楽しそう」「やってみたい」と思う物を教材研究し準備したり、保育者も一緒に遊びながら楽しんだりしたことが、今の子どもたちの遊びを楽しむ姿につながっていったのではないかなと思われる。

・現在、お家ごっこだけではなく、お店屋さんやお医者さん、美容院ごっこなど、ごっこ遊びに広がりが出てきている。今後の保育でも、子どもたちが身近なものに見立て、ごっこの世界を楽しめるような素材を準備したり、室内のレイアウトを変えたりなど、保育者自身も楽しみながら保育を行っていきたい。

